

2012年10月12日
平成24年度「橋梁技術発表会および講演会(東京地区)」

国土教育と虹橋の未来

国土交通省国土技術政策総合研究所
森田 康夫(国土学アナリスト)

本日の講演目次

- I. 東日本大震災と国土学
- II. 国土教育と日本人
- III. アメリカの歴史・地理教育から学ぶ
- IV. 虹橋の未来へ

2

本日の講演 Keyword

- 人と国土(国土への働きかけ)
- 時間(過去・現在・未来)と空間(国家と世界)
- 歴史と地理と公民
- 比較する(相対化する)
- 参加と多様性
- 教育(気づきと学び)
- 哲学・信仰

3

I. 東日本大震災と国土学

4

これは何を表している？

5

東日本大震災を経験して①

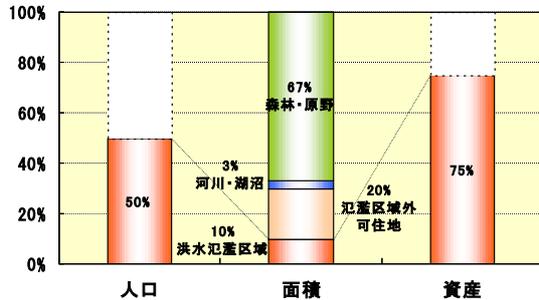
- 日本の国土は自然災害に対して、如何に脆弱であるか
⇒ 欧州先進国と比べ「10のハンディキャップ」
- この国土上で、日本人は何度も何度も大きな災害に見舞われながら、その都度苦しみを乗り越え、立ち上がってきた。
- 人の生活にとって、道路等の社会資本(インフラストラクチャ)が如何に重要であるか。
- 先人たちが残してくれた財産の上に、今の生活がある。したがって、現世代のわれわれは、これらの資産を改善し、将来世代に引き継いでいかななければならない。
世界の国々と競争しながら生きていくためにも。

6

⑤洪水氾濫域に集中する人口・資産

➢10%の氾濫地域に人口の50%と資産の75%が集中。

日本の国土利用状況



※大石久和氏(財)国土技術研究センター資料より 13

⑤河川の水位より低い日本の都市

ロンドン



パリ



ニューヨーク



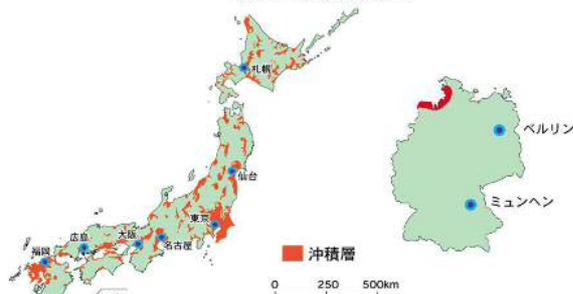
東京



※大石久和氏(財)国土技術研究センター資料より 14

⑥軟弱地盤の上に立地する日本の大都市

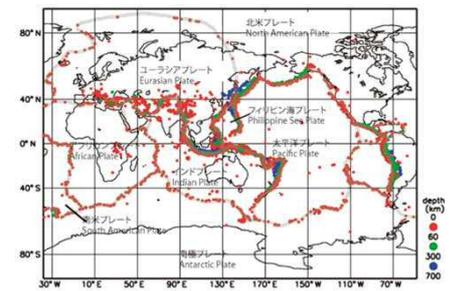
日本とドイツの沖積層の分布



※大石久和氏(財)国土技術研究センター資料より 15

⑦日本周辺で世界のM5以上地震の約10%が発生

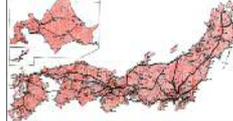
➢M6以上の地震では、全世界の20%程度も発生
(日本の国土面積は、全世界の陸地面積の0.25%)



注1)1900~2005年、マグニチュード5以上。
注2)アメリカ地震調査局の地震データベースをもとに気象庁において作成
出典:平成19年版防災白書
※大石久和氏(財)国土技術研究センター資料より 16

⑦地震力の違い(地震力を考慮しなければならない地域)

日本



全国平均水平震度=0.22

米国



全国平均水平震度=0.08

フランス



全国平均水平震度=0.03

ドイツ



全国平均水平震度=0

■:地震力を考慮する地域

※大石久和氏(財)国土技術研究センター資料より 17

フランスと日本の橋はなぜ違う?

⇒知識がなければものは見えない



阪神高速道路の橋脚



シャルル・ド・ゴール空港のアクセス道路の橋脚

※大石久和氏(財)国土技術研究センター資料より 18

パリに比べ二重・三重のハンディ・キャップを抱える東京

	パリ	東京
地震力	考慮する必要がない	大きな地震力を考慮しなければならない
地盤条件	岩盤上にある	軟弱地盤上にある
強風特性	ハリケーンは来ない	頻繁に台風の襲撃をうける
氾濫原	洪水によって氾濫することはない	多くの地域が浸水してしまう

出典: 大石久和氏(財)国土技術研究センター資料より **19**

過去の自然災害死者数(震災・津波・火山)

順位	災害名	年	死者数 行方不明者数	順位	災害名	年	死者数 行方不明者数
1	関東大震災(関東地震)	1923	105,000	11	安政江戸地震	1855	7,444
2	明応地震	1498	41,000	12	濃尾地震	1891	7,273
3	鎌倉大地震	1293	23,000	13	阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)	1995	6,437
4	明治三陸地震津波	1896	22,000	14	福井地震	1948	3,769
5	宝永地震	1707	20,000	15	会津大地震	1611	3,700
6	東日本大震災	2011	18,716	16	三陸地震津波	1933	3,064
7	島原大震災後迷惑	1792	15,000	17	北丹後地震	1927	2,925
8	八重山地震津波	1771	12,000	18	三河地震	1945	2,306
9	元禄地震	1703	10,000	19	三陸沿岸および北海道東岸	1611	2,000~5,000
10	善光寺地震	1847	8,174	20	安政東海地震	1854	2,000~3,000
				21	安政南海地震	1854	数千

出典: 理科年表(国立天文台編)、内閣府(防災)ホームページ
大石久和氏(財)国土技術研究センター資料より **20**

過去の自然災害死者数(風水害)

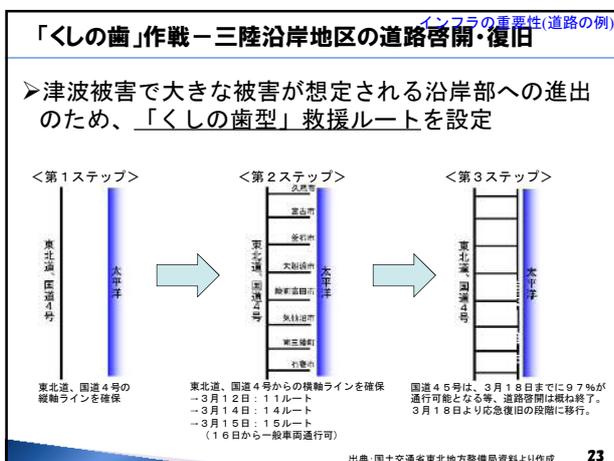
順位	災害名	年	死者数 行方不明者数	順位	災害名	年	死者数 行方不明者数
1	安政3年の大風災(関東ほか台風)	1856	100,000余名	11	洞爺丸台風	1954	1,761
2	シーボルト台風	1828	10,000以上	12	明治26年の風水害(大分ほか台風)	1893	1,719
3	寛保の洪水(関東・東山大暴雨)	1742	6,000	13	十津川大水害(台風)	1889	1,496
4	伊勢湾台風	1959	5,098	14	明治43年の洪水(関東大水害)	1910	1,357
5	枕崎台風	1945	3,756	15	東京湾台風	1917	1,324
6	室戸台風	1934	3,036	16	暴風雨(島根)	1542	1,300
7	皮の満水(千曲川洪水)	1742	2,800	17	狩野川台風	1958	1,269
8	大風雨・高潮(大阪湾)	1670	2,143	18	別子銅山を直撃した台風	1899	1,161
9	明治17年の風水害(岡山ほか台風)	1884	1,992	19	周防灘台風	1942	1,158
10	カスリーン台風	1947	1,930	20	南紀豪雨	1953	1,124

注) 台風は明治時代までは「大風」「暴風雨」「低気圧」「颶風」などと呼ばれた。 出典: 台風・気象災害安全(宮澤清治、日外アンエーツ編)
大石久和氏(財)国土技術研究センター資料より **21**

東日本大震災を経験して②

- 日本の国土は自然災害に対して、如何に脆弱であるか
⇒ 欧州先進国と比べ「10のハンディキャップ」
- この国土の上で、日本人は何度も何度も大きな災害に見舞われながら、その都度苦しみを乗り越え、立ち上がってきた。
- 人の生活にとって、道路等の社会資本(インフラストラクチャ)が如何に重要であるか。
- 先人たちが残してくれた財産の上に、今の生活がある。したがって、現世代のわれわれは、これらの資産を改善し、将来世代に引き継いでいかななければならない。

世界の国々と競争しながら生きていくためにも。 **22**



迂回路・避難路として機能した三陸道—『命の道』

インフラの重要性(道路の例)

大津波に機能・効果発揮
被災地へ『命の道』確保

釜石市建設課

釜石山田道路の両石高架橋 (岩手県釜石市 3月17日)

路面が崩落した国道45号(岩手県釜石市3月14日)

三陸縦貫道など高規格道路

三陸縦貫道など高規格道路

被災地へ『命の道』確保

出典: 国土交通省東北地方整備局ホームページ
日刊建設工業新聞 2011年(平成23年)3月18日より抜粋 **25**

防潮堤として機能した仙台東部道路—『命の道』

インフラの重要性(道路の例)

仙台東部道路(宮城県岩沼市)

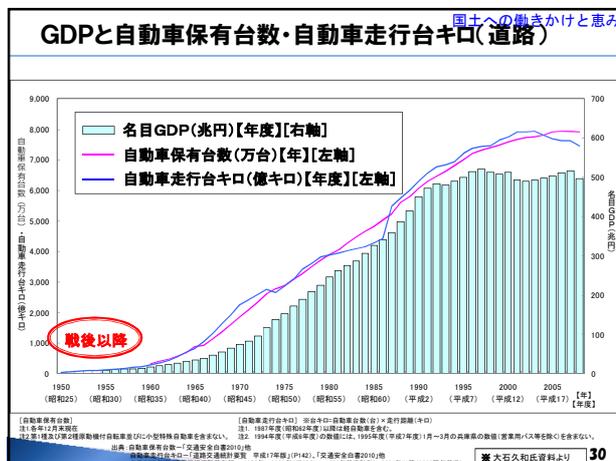
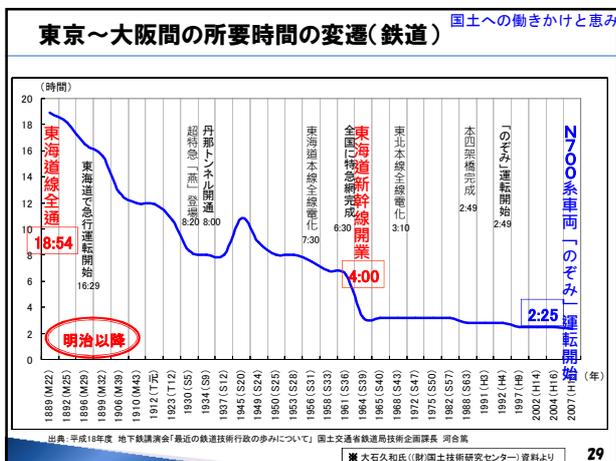
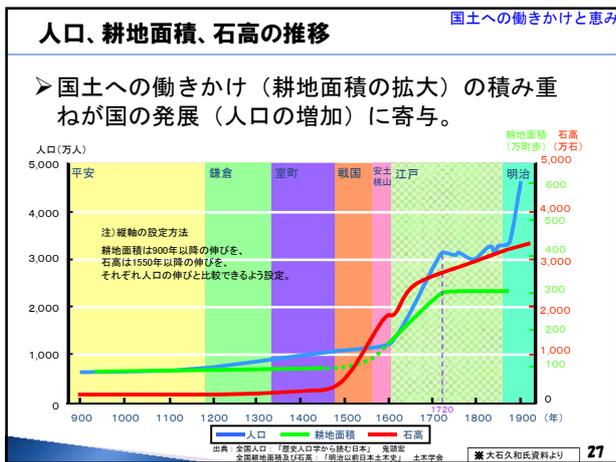
仙台空港IC
岩沼IC
釜石IC

3月12日撮影 国土交通省 国土院提供資料

避難状況(仙台港北IC付近)

→ 非日常から日常へ思いを巡らす

出典: 国土交通省東北地方整備局ホームページ **26**



青少年の意識調査の国際比較(日本青少年研究所)

- 「高校生の意欲に関する調査」(2006年・秋)
 - 「暮らしていける収入があればのんびりと暮らしていきたいと思う」
⇒ 米13.8%、中国17.8%、韓国21.6%、**日本42.9%**
 - 「偉くなりたいと思う」
⇒ 米66.1%、中国85.8%、韓国72.3%、**日本44.1%**
- 「中学生・高校生の生活と意識に関する調査」(2008年・秋)
 - 「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかも知れないと思う」
⇒ 中学生で、米53.3%、中国58.3%、韓国66.5%、**日本37.3%**
高校生で、米69.8%、中国62.7%、韓国68.4%、**日本30.1%** ↓
 - 「自分はダメな人間だと思う」
⇒ 中学生で、米14.2%、中国11.1%、韓国41.7%、**日本56.0%**
高校生で、米21.6%、中国12.7%、韓国45.3%、**日本65.8%** ↓

出典: 日本青少年研究所「国内外の青少年の意識及び行動についてのアンケート調査」 37

学習指導要領の変遷(小中学校社会科)

- 昭和22年度版(試案) ⇒ 「問題解決学習」「生活単元学習」主体で、多くの時間が配当された。
GHQによって戦後禁止されていた修身・歴史・地理が、新教育制度発足とあわせ「社会科」として再生。
- 昭和30年度版 ⇒ 単元学習から系統性重視へ
- 昭和33年10月施行 ⇒ 系統性を重視したカリキュラム、「道徳」の特設
- 現代化カリキュラム(S46・47施行) ⇒ 戦後最高レベルの濃密な学習指導要領
- ゆとりカリキュラム(S55・56施行) ⇒ 授業時数と指導内容が大幅に削減
- 旧学習指導要領(H4施行) ⇒ 小学校1・2年の社会科が廃止され、「生活科」が創設
- 学習指導要領(H14施行) ⇒ 学校完全週5日制の下、「総合的な学習の時間」が創設
- 新学習指導要領(H23～段階実施) ⇒ 教育基本法改正を踏まえ充実(小学:自然災害、中学:世界地理等) 38

小学校・社会科教科書と国土教育①

- 授業時間数の減少(「現代化カリキュラム」→「～H22」で1/3減)
 - 昭和46年施行指導要領: 小4～6年の社会科授業時間合計で420時間/3年
 - 平成14年施行指導要領: 小4～6年の社会科授業時間合計で275時間/3年
- 『国土(郷土)を開発してきた先人達の努力』—小学4年生—
 - 昭和45年検定教科書: 「開発のむかしといま」という単元で46頁(東京書籍)
 - ・ 相模原台地の新田開発・ダム
 - ・ 箱根用水
 - ・ 高浜山の砂防林(出雲市)
 - ・ 天竜川の堤防
 - ・ 八郎湯の干拓
 - ・ 高速道路、観光道路、住宅用地、水道等々
 - 「交通の発達」という別単元で46頁
 - ・ 江戸時代以降の交通の歴史(道路、水運)
 - ・ 鉄道整備の歴史と鉄道網
 - ・ 鉄道をしく苦心(トンネル、橋梁)
 - ・ 交通の発達と産業への影響等
 - 平成16年検定教科書: 「大河原用水(八ヶ岳山麓)の開発」について14頁
⇒ 現在の小学生と三十数年前の当時のわれわれとは、圧倒的に国土への働きかけに関する学習量が違う 39

小学校・社会科教科書と国土教育②

- 『私たちの生活と情報』—小学5年生—
 - 昭和27年検定教科書: 小学6年生の教科書にマス・メディアを批判的に読み解く動機があった
 - 昭和45年検定教科書: (記述無し)
 - 平成16年検定教科書: コマーシャルやテレビ・新聞報道を取り上げ、更に誤った報道事例や過熱取材の例を参考資料として掲載し、これらマス・メディア情報を如何に活用するか、またどう読み解くかについてコメント
- ⇒ 国土への働きかけが如何にあるべきか(程度・対象・手段などは、主権者である国民一人一人が判断しなければならない事項。
そのためにも、メディア情報を鵜呑みにせず、主体的に読み解いて活用する能力を持たなければならない(メディア・リテラシー教育の必要性)

出典: いずれも東京書籍検定教科書より 40

メディアに関する全国世論調査(新聞通信調査会2011)

各メディアの信頼度

全く信頼していない ← 中間 → 全面的に信頼している

NHKテレビ	74.3
新聞	72.0
民放テレビ	63.8
ラジオ	63.1
インターネット	56.3
雑誌	44.1

各組織、団体の信頼感

国	信頼層	不信頼
病院	75.4%	18.1%
報道機関	67.4%	25.4%
裁判所	60.6%	25.8%
警察	52.2%	39.9%
中央官庁	25.0%	55.8%
国会	20.4%	71.7%
政党	12.0%	77.9%

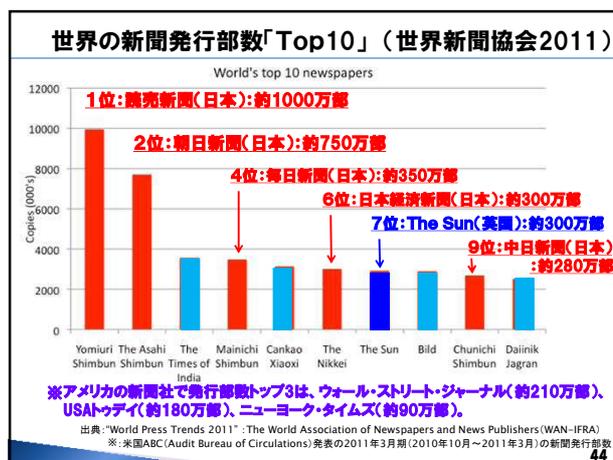
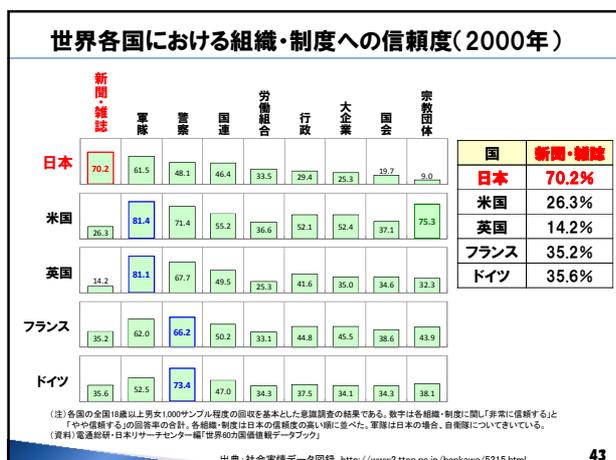
出典: 2011年メディアに関する全国世論調査(公益財団法人新聞通信調査会) 41

アメリカ国内の組織・制度への信頼度(ギャラップ2012)

最新データ (2012年6月)

- 75%(軍隊)
- 63%(中小企業)
- 56%(警察)
- 44%(宗教団体)
- 21%(銀行)
- 13%(議会)

出典: <http://www.gallup.com/poll/155258/confidence-public-schools-new-low.aspx>
「ギャラップ調査」: 全米の約1,000人を対象としたランダムサンプリング調査(電話インタビュー) 42



中学校「地理分野」教科書と国土教育①

■ 昭和30年の学習指導要領以降、地理分野の検定教科書の学習項目・内容はほとんど変わっていない

➡ わが国の国土・自然条件(火山や地震が多い、平野が狭い、川が急で短い、台風が来る等)については、いずれの時代の教科書においても、学習可能

出典: 五味文彦・斎藤功・高橋進ほか45名 平成17年検定済『新編 新しい社会 地理』東京書籍 45

中学校「地理分野」教科書と国土教育②

■ 「現代化カリキュラム」の昭和46年検定教科書と、平成17年検定教科書を比較すると、全体頁数は2/3に削減(本文323頁→215頁)

■ 「現代化カリキュラム」では、日本の地誌、世界の国々の地誌を系統的・網羅的に学習することができたのに対して、平成17年検定教科書では、ごく一部の地誌しか学ぶことができない

- 例えば、世界の地誌については、アメリカ、中国、フランスについては学べるが、あとはブラジル、マレーシア、オーストラリア、ガーナについて補足的に学べる程度

※ 新学習指導要領を踏まえた平成24年度以降の教科書では「世界の諸地域の地理」が復活

➡ いずれの時代においても、中学地理教科書は重要な「国土教育」の材料であるが、教科書記載分量及び授業時間数の大幅削減により、十分な思考が深まっていけない学習環境へ

出典: いずれも東京書籍版検定教科書より 46

中学校「歴史分野」教科書と国土教育(現在)

■ 歴史分野教科書(平成17年検定)では、わが国の歴史上の事象や人物・文化遺産等を中心に「事件史・出来事史」が取りまとめられているため、国土形成の歴史や社会資本の役割や効果、社会資本整備に携わってきた人々の苦労など「国土教育」に関係する記述は極めて限定的

- 例えば、灌漑用ため池整備、平城京建設、行基のみちぶしん、太閤検地、五街道整備、新田開発、鉄道開通、...

■ いくつかの例外(国土教育面から見た好事例)

- テーマ学習欄において、『近代化遺産の価値』を取り上げ(日本文教出版)
- 人物コラム欄において、『台湾の開発と八田與一』を取り上げ(扶桑社)

➡ 「国土教育」を学ぶ材料として、現在の歴史分野教科書に効果的な役割を期待することは難しい

出典: 五味文彦・斎藤功・高橋進ほか45名 平成17年検定済『新編 新しい社会 歴史』東京書籍 ほか 47

中学校「歴史分野」教科書と国土教育(昭和20年代)

■ 単元学習の時代の教科書(昭和27年検定)

- 「都市や村の生活はどのように変わってきたか(中学2年・単元I)」 = 約100頁
- 「世界の諸地域はどのように結びついてきたか(中学1年・単元IV)」 = 約100頁

⇒ 都市や村の形成の歴史、これらをつなげる交通の発達史の歴史、海外の都市形成・交通発達史との比較 等

➡ 戦後、昭和20年代の教科書で授業を受けた者は、長年の国土への働きかけの努力が結実した「現在の国土」をどう改善して次の世代に渡すのかについて、思いをはせることが可能であった。また、世界をも視野に入れた自立した物差しで考えることができたのではないか。

出典: 斎藤功・昭和27年検定済『新しい社会 中学1年上』同、下『中学2年上』同、下』東京書籍 48

中学校「公民分野」教科書の内容の変化①

- 家庭教育の扱いが極めて小さくなった
 - 昭和27年検定教科書：「学校生活」について約40頁、「家庭生活」について約30頁
 - 平成17年検定教科書：『個人と社会生活』という1節の中で、実質2頁弱
- 政府(行政)や公務員の役割が小さくなった
 - 昭和27年検定教科書：「政府や公務員の役割」について約25頁うち、「国の実施する社会資本整備関係記述」のみで約2頁
 - 平成17年検定教科書：「行政」について9行、「公務員」について7行
- 自由主義から平等主義へ
 - 昭和27年検定教科書：「自由主義」を中心として約90頁
 - 平成17年検定教科書：「自由権」について2頁、「平等権」について6頁

出典：いずれも東京書籍版検定教科書より 49

中学校「公民分野」教科書の内容の変化②

- 文化・芸術や宗教知識教育の空洞化
 - 昭和27年検定教科書：「文化」全体で168頁(うち「宗教」「芸術」「科学」各約50頁)
 - 平成17年検定教科書：いずれも数行の世界

⇒ 戦後、自立すら許されなかった時代でさえ、これだけの学習指導要領や社会科教科書を作って、次の世代の国民の教育に力を注いだ先人達の努力を、現世代のわれわれは今こそ見つけ直すべきではないか。

出典：いずれも東京書籍版検定教科書より 50

高等学校「地理B」教科書と国土教育①

一 産業(農業等)が国土への働きかけであることの説明

- 「昭和31年検定教科書」
 - ⇒ 農業だけでなく、牧畜、水産、林業、そして工業に至るまで、教科書(経済地理分野)で取り上げられている全ての産業の最初の記述の部分で、それぞれの産業と国土(地理的条件)との関係がしっかり説明されている。

一 交通の発達と機能に関する説明

	記述内容	記述頁数
昭和31年検定教科書	陸上交通(道路、鉄道)と水上交通(内陸水路、海上交通)が中心	14頁
昭和53年検定教科書	航空交通が中心	6頁
現行の教科書		3頁

大いに削減

出典：いずれも帝国書院版検定教科書より 51

高等学校「地理B」教科書と国土教育②

一 国家についての説明

- 「昭和31年検定教科書」
 - 「国はその国民をつくらうとする意欲と情熱をもっているものでなければならない。」
 - 「国土としてまとまった統一あるものに組織されて行くには、国の力が問題となる。すなわち国の位置、形、大きさ、経済力、軍事力、その民族の文化的社会的な強さの総合されたものが国力である。」
 - 「国力を決定づけるものとして、国土の広さと共に、国民人口とその素質および国民の国家意識があげられる。」
- 「昭和53年検定教科書」及び「現行の教科書」
 - ⇒ 「国家」を論じる箇所はあるが、取り立てて紹介すべき内容は見当たらない。

出典：いずれも帝国書院版検定教科書より 52

高等学校地理教育が抱える課題

- 中学校社会科の履修内容の減少による影響※新学習指導要領で改善
 - 中学校で遊ぶ世界地理は、中国、アメリカ合衆国、EUの一国のみ。⇒「地理」に関心が無い高等学校入学生の増加
- 学習指導要領(世界史のみ必修)の影響
 - 「地理」の開講率および選択者数の減少 ⇒「地理」履修者は、全生徒の半数以下に低迷
- 大学入学試験の影響
 - 私立文系：「地理」では受験できない大学・学部が多い。
 - 国立文系：地理歴史科から2科目を課す大学・学部は稀。
 - 私立理系：「地理」は受験科目外。 ⇒「地理」履修者の多くは理系の生徒。しかもセンター試験対策としての色が濃い。
- 教員養成上の問題
 - 「地理」を専門とする教員の減少 ⇒高等学校で「地理」を履修せず、大学でも専門として「地理」を学んでいない教員が、「地理」の面白さを授業で伝えることは困難。

53

高等学校社会科・科目別教科書需要数の推移

出典：日本学術会議地域研究委員会人文・経済地理と地域教育(地理教育を含む)分科会、人間学分科会、平成18年9月20日「対外報告、現代的課題を切り拓く地理教育」に加工 54

地理歴史教育復権に向けた取り組みと今後の展望

- **大学入試科目と高等学校履修科目の増加**
 - 大学(文系学部)の入試科目数を増やし、「地理歴史科から2科目以上選択」を標準化
 - 高等学校学習指導要領を見直し、地理、世界史、日本史の3科目必修化
- **地理歴史教育全体の底上げ**
 - 「地理歴史に関する総合的な科目の設置」(H20.1 中教審答申)の検討
 - ⇒ 暗記科目としての地理歴史科から脱却し、**歴史的な視野(時間軸)**と**世界的な視野(空間軸)**を持って「**現在を如何に生きるか**」を考えることの出来る「**日本人**」育成のための教育科目へ
- **高質な教育者の育成と幅広い実践**

55

フェルナン・ブローデル(1902-85年)著『地中海』

- ス페인帝国とオスマン・トルコ帝国が覇権を争っていた16世紀後半の地中海世界に関する歴史書
- 正式著書名『フェリーペII世時代の地中海と地中海世界』
- 歴史学のみならず、民族誌学、地理学、植物学、地質学、科学技術など隣接学問をも含めた広範かつ膨大な数の論文、報告書、出版物等を駆使して著述した「**全体の歴史書**」
- 歴史の主人公を、政治史や外交史の主要な登場人物であるフェリーペII世という個人ではなく、「**地中海とそれを取り巻く地中海世界**」という、大きな「**空間**」にしたこと
 - ⇒ 「**世界システム論**(イマニュエル・ウォーラーステイン)への流れ
- 空間(地理的条件や自然環境)が歴史において果たす役割に焦点が当てられるとともに、歴史(時間軸)が段階的に成層化された三つの次元、
 - 「**地理的な時間(長期)**」
 - 「**社会的な時間(中期)**」
 - 「**個人の時間(短期)**」
 に区別され、三部構成で展開されていること

56

歴史の深層としての「国土」

= Fernand Braudelの『地中海』に学ぶ

57

まず初めに山地(山地と諸文明・諸宗教)

「山は、ふつう、都市や低地国の創造である諸文明から離れた世界である。山の歴史、それは諸文明をいささかも持たないことであり、ほとんどいつも文明普及の大きな流れの周縁にあることである。(中略)十六世紀には至るところで、高地の世界は、地中海の支配的な諸宗教にほとんど興味を示さない。至るところに、山岳生活のずれがあり、遅れがある。」

- 山地にとって、ローマ帝国はほとんど重要でなかった。
- 山地はラテン語を受け付けなかった。
- 16世紀の山地では、カトリックにとってもイスラム教にとっても、伝道の任務は達成されるにはほど遠い状況であった。一方、いわゆる魔術が長く生き残るのも山の世界であった。

【フランスとピエモンテの間のアルプス山脈】

58

山地から平野へ

「おそらく山は、その起源において、この海の歴史を作りさえたのだ。(中略)平野は、もとは淀んだ水とマラリアの領分であったという事実がある。あるいは大河の変わりやすい水が溢れ出てくる地帯であった。人の住む平野、これは今日では繁栄のイメージであるが、それが達成されたのは遅く、何世紀にもわたる集団の努力の骨折りの結果である。」

- 平野…かつてはマラリアや洪水のリスクを抱えた土地
- その阻止と灌漑用水の獲得(=土地改良)に懸ける地味無しの努力の積み重ねが、今日の人類繁栄の背景に存在する。

⇒ 「つねに地中海の人間は沼地と戦ってきた」
…地中海の農村史の本当の独自性

【ローヌ川のデルタ】

59

「歴史地理学」と『国土教育』の概念

- **Fernand Braudelの歴史認識**
 - 「自然環境」(≒「国土」)を、人間の尺度(人間集団の尺度、人間社会の尺度)で見つめ直すことが、真の歴史学「歴史地理学」である。
- **『国土教育』の骨格**
 - 歴史の目で見るとこそ、「国土」と人間との関係が、一歩引いた目線から俯瞰的に見える。
 - 例えば、人間と距離との戦いが「交通」であることは、現在の目線からのみでは、明確に読み取ることはできない。
 - だからこそ、如何に「国土」が人間にとって重要で、「国土」への働きかけと「国土」からの恵みの相互作用によって人間の生活が保たれているか、人類の幸せが担保されているかということこそ、われわれは深く認識しなければならない。= 『国土教育』の実践

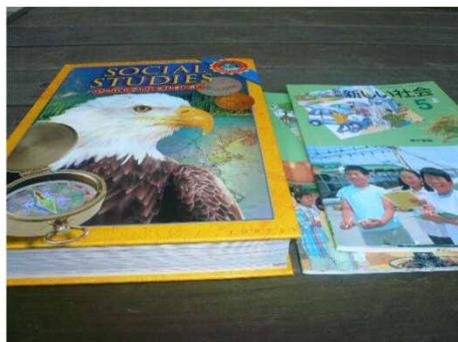
⇒ **初等・中等地理歴史科教育に携わる者の責務**
⇒ **大学・大学院で土木工学を学び、社会に出て国土整備・国土管理に携わる者の責務**

60

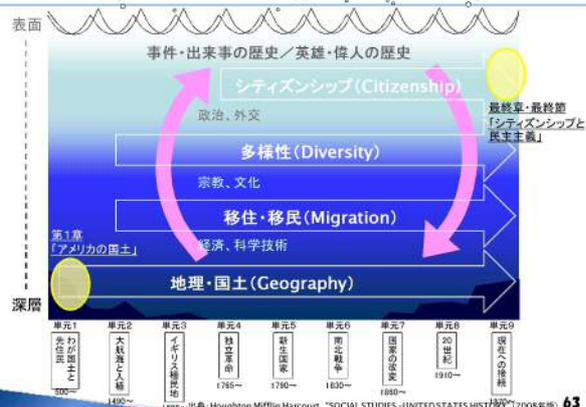
Ⅲ. アメリカの歴史・地理教育から学ぶ

詳しくは、JICE REPORT 第19号・第20号をご覧ください。

アメリカ人の学ぶ「合衆国史」教科書



アメリカ人の学ぶ「合衆国史」の構造(Grade5教科書)



合衆国史の主要テーマ1:「地理・国土(Geography)」

➤「合衆国史」教科書の最初(第1章)の学習テーマ
⇒「アメリカの国土 (America's Land)」

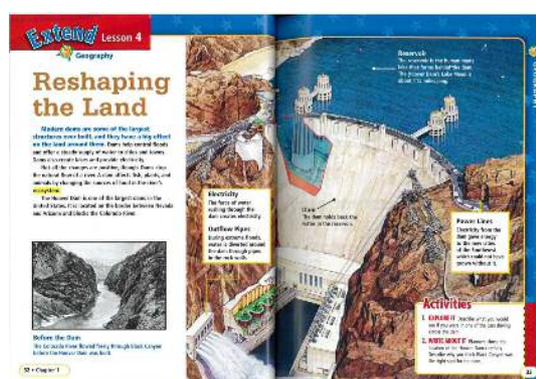
➤つまり、歴史教科書の最優先学習課題として、「地理・国土 (Geography)」が位置づけ。

➡ 歴史の深層には必ず地理や国土というものがあって、その上で相互に影響を与え、受けながら、国民の歴史が展開されてきた。という「合衆国史」教科書の構造

第1章・Lesson1「国土と気候(Land and Climate)」

この教科書では、合衆国に暮らす国民のことを学びます。この教科書を読んでいくうちに、合衆国民にとって国土がいかに重要なものであったか、そして今も重要なものであるかがわかると思います。合衆国を理解するには、地理を習得しなければなりません。地理とは、世界とそこに住む人々や事象について学習することです。地理学者は、地球のことを、そして如何に地球が人類にとって住みよいものとなるかについて考えます。彼らは、場所とはどこで、どんな特徴があるのかということ問いかけます。また、国土が人に如何に働きかけ、また人が国土に如何に働き返すかについても問いかけます。彼らの回答は、われわれが過去、現在、そして未来をより理解するための手助けになるでしょう。

フーバーダムと環境影響 (People and the land)



合衆国史の主要テーマ2:「移住・移民(Migration)」

- 氷河期にベーリング地峡を渡って南北アメリカ大陸に移住してきた**古代インディアン**
- 入植・植民地時代(17~18世紀) ⇒ **イギリス系・フランス系・オランダ系移民とアフリカ系奴隷**
- 18世紀中頃から ⇒ **ドイツ系・アイルランド系**
- 1880年代から ⇒ **イタリア系・ユダヤ系・スラブ系**
- 第二次世界大戦後 ⇒ **アジア系・ラテンアメリカ系**

➔ **アメリカ合衆国はいずれの時代も世界中から多くの移民(Immigration)を受け入れてきた**

出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 67

「移住・移民(Migration)」②

- 17世紀初めのイギリス植民地建設と同時に始まり、1890年の「フロンティアの消滅」をもって終わりを告げた**西部開拓の歴史**
- 1920年代の**アフリカ系アメリカ人の北部への大移住** ⇒ 「ハーレム・ルネッサンス」
- 1930年代の**ダストボウル・マイグレーション**(グレートプレーンズで断続的に発生した砂嵐に伴う農業崩壊・離農・移住)

➔ **移民たちは、より良い生活を目指して、西部へ、北部へと大陸を移住(Migration)していった**

出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 68

大陸横断鉄道による距離の克服

Method of Travel	Travel Time
Ship	Six months
Fairroad and wagon	Five months
Transcontinental railroad	Eight days

Reading Charts About how many weeks longer did it take to travel from coast to coast by ship than by the first transcontinental railroad?

Major U.S. Railroads, 1869

出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 69

合衆国史の主要テーマ3:「多様性(Diversity)」

- **世界有数の多民族国家**
 - ✓ ヨーロッパ系(ドイツ系、アイルランド系、イギリス系、イタリア系、フランス系)
 - ✓ ヒスパニック系
 - ✓ アフリカ系
 - ✓ アジア系
 - ✓ アメリカ・インディアン
- **多様な宗教を抱える国**
 - ✓ プロテスタント(バプテスト派教会、メソジスト派教会、ルター派教会ほか)
 - ✓ ローマ・カトリック
 - ✓ ユダヤ教
 - ✓ イスラム教 ほか

➔ **民族と宗教の多様性(Diversity)は、合衆国の最大の強みの一つである**

出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 70

エ・プルリブス・ウナム
E pluribus unum (多数から一つへ)

- アメリカ合衆国の標語(motto)
- 13文字からなるラテン語(独立当時は13州)
- 英語: Out of many, one

Motto on Money
American coins are a daily reminder of the motto "E pluribus unum."

➔ **人種・宗教・信条を超えて一つの国家としてまとまろう**

出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 71

「多様性(Diversity)」②

- これまでの合衆国史の主流は「**ワスプ・男性**」(White Anglo-Saxon Protestant)

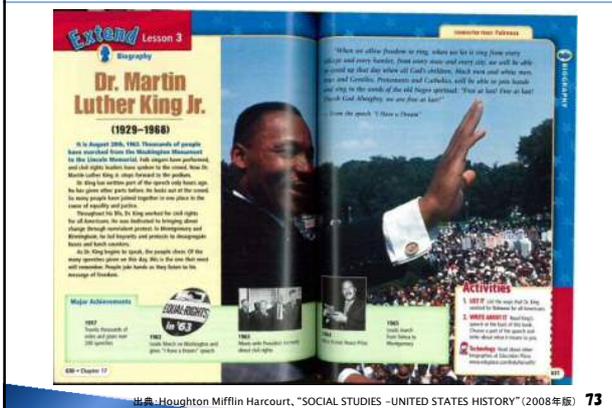
⇕

- 教科書(Grade5)全レッスンのうちの約6割で、「**マイノリティや女性たち**」の活躍が記述(アフリカ系、ラテン系、アジア系、インディアンなど)

➔ **マイノリティや女性たちの歴史的役割を評価、合衆国史の主流に位置づけ**

出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 72

キング牧師「私には夢がある」



出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 73

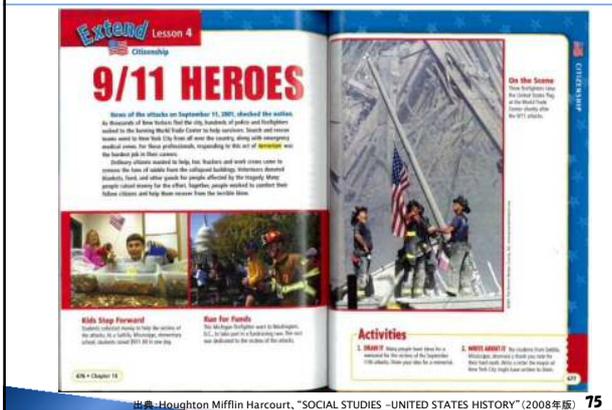
合衆国史の主要テーマ4:「シティズンシップ(Citizenship)」

「合衆国史」教科書の最終レッスンの学習テーマ
⇒ 「シティズンシップ(Citizenship)」



出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 74

9・11の英雄たち



出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 75

「シティズンシップ(Citizenship)」②

- 民主主義国家の市民(Citizen)であることは、権利(Right)と責任(Responsibility)を併せ持つことを意味する。
- 権利(Right)とは、法律によって担保された自由(Freedom)のごとであり、権利章典(Bill of Rights)に書かれた宗教の自由、言論や報道の自由、平和的に集会し抗議する権利、公正な裁判を受ける権利を含む。
- 責任(Responsibility)には、投票(Vote)、遵法(Obey laws)、納税(Pay taxes)、陪審(Serve on juries)が含まれる。

出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 76

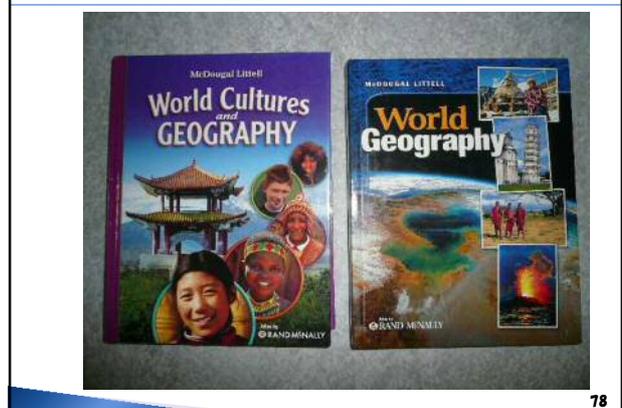
「シティズンシップ(Citizenship)」③

- 投票権を持たない若者もボランティアを通して地域や国家に貢献することが必要である。
- また、これからしっかり学習することで、大人(18歳)になった時に良い投票が可能となり、結果、民主主義に貢献することも、合衆国をより良い国にすることもできるようになる。

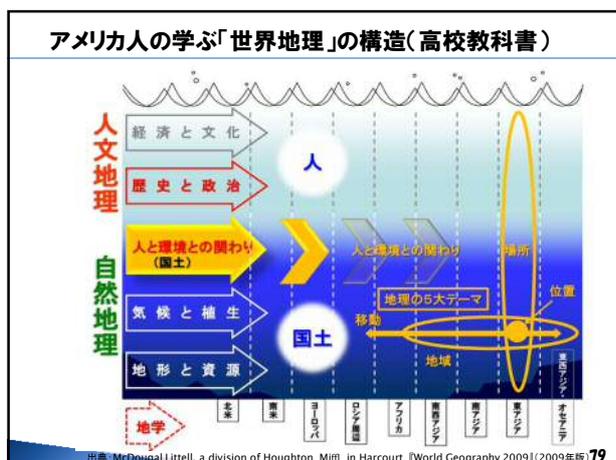
➡ 戦後の小学校社会科教科書(柳田国男監修の小学6年生用教科書の最終頁)を思い出させる。

出典:Houghton Mifflin Harcourt, "SOCIAL STUDIES -UNITED STATES HISTORY" (2008年版) 77

アメリカ人の学ぶ地理教科書(中学・高校)



78



「人と環境(国土)との関わり」という学習単元

	テーマ1	テーマ2	テーマ3
(Unit2) 合衆国とカナダ	■アメリカ大陸への先住民の入植と農業による国土の改造(農作物の主要輸出国へ)	■都市の建設(地下空間利用が進む寒冷地・断鉄道、国道ネットワークの整備による)	■内陸運河、大陸横断の整備による「距離の克服」
	[米国、カナダ]	[米国、カナダ]	[米国、カナダ]
(Unit4) ヨーロッパ	■ホルダー(堤防や用水路を用いて開拓した埋立地)整備による国土創造の歴史	■運河建設によるヴェネツィア(ベニス)の商業発展と今日の課題(水害や水質汚濁など)	■数百年にわたる森林伐採と酸性雨の被害によって木々が枯死している「黒い森(シュヴァルツワルト)」
	[オランダ]	[イタリア]	[ドイツ]
(Unit9) 東アジア	■長江に建設された三峡ダムのプラス効果とマイナス効果	■山地の島国に1億2700万人が暮らす日本の都市生活(公害、狭い住居、長距離通勤、埋立)	-
	[中国]	[日本]	

出典: McDougal Littell, a division of Houghton Mifflin Harcourt 『World Geography 2009』(2009年版) 80

オバマ合衆国大統領・就任演説(2009年1月)

新しい雇用を創造するだけでなく、成長の新しい基盤を築くために我々は行動する。我々は商業の種となり、我々を結びつける道路や橋、送電網や通信網を造る。科学を本来あるべき地位に引き上げ、医療の質の向上とコストを抑えるために素晴らしい技術を駆使する。太陽、風、大地を使い自動車を動かし、工場を稼働させる。新しい世代の需要に合うように学校や大学を変革していく。これらはすべて実現可能だ。そして我々はこれらをすべてやる。(NIKKEI NET訳)

➡ **インフラ投資に対する確固たる姿勢**

81

オバマ合衆国大統領・就任演説(2009年1月)②

彼らは私たちのためにわずかな所持品をかばんにしまい、海洋を旅し、新しい生活を探してくれた。彼らは私たちのために工場で汗を流して働き、西部を開拓し、むち打ちに耐え、硬い大地を耕してくれた。彼らは私たちのためにコンコード、ゲティスバーグ、ノルマンディー、ケサンのようなところで戦い、命を落とした。これらの男女は私たちがよりよい暮らしを送れるよう何度か何度か苦闘し、犠牲を払い、手が圓れるまで働いてくれた。彼らの目に映る米国は、1人ひとりの大望の集積もさらに大きいものだった。生まれや富や党派の違いを超越した国だった。これが今日も我々が続けている旅だ。我々は依然として地球上で最も繁栄し、強い国家だ。

➡ **過去と現在と未来をつなぐ壮大な物語**

82

オバマ合衆国大統領・就任演説(2009年1月)③

アメリカよ。共通の危機に直面した今、この困難な冬に、我々はこの時を超えた言葉を思い出そうではないか。希望と美徳によって、氷のように冷たい流れにもう一度勇敢に立ち向かい、いかなる嵐が訪れようとも耐えようではないか。子々孫々が今を振り返った時に、我々が試験の時に旅を終えることを拒否し、引き返すことも、たじろぐこともなかったということを語り継がせようではないか。地平線に視線を定め、神の慈悲を身に浴びて、我々は自由という偉大な贈り物を選び、将来の世代に安全に送り届けたということ。ありがとう。神の祝福がみなさまにあらんことを。そして、神の祝福がアメリカ合衆国にあらんことを。(NIKKEI NET訳)

➡ **過去と現在と未来をつなぐ壮大な物語**

オバマ大統領演説は「合衆国史」「地理」教科書の延長

83

「神の下なる一つの国家(国民)」の歴史

- **メイフラワー誓約(1620年)に含まれる「神の栄光のため(for the glory of God)」という言葉。**
- **アメリカ独立宣言(1776年)に含まれる「創造主によって(by their Creator)」という言葉。**
- **ゲティスバーグ演説(1863年)に含まれる「この国に神の下で(this nation, under God)」という言葉。**

出典: Houghton Mifflin Harcourt, 『SOCIAL STUDIES—UNITED STATES HISTORY』(2008年版) 84

現在の「神の下なる一つの国家(国民)」

- 「合衆国国旗への忠誠の誓い」に含まれる「**one Nation under God**」という言葉。
I pledge allegiance to the Flag of the United States of America, and to the Republic for which it stands, **one Nation under God**, indivisible, with liberty and justice for all.
- 「E PUBLIBUS UNUM」と書かれたアメリカ合衆国の硬貨の表側にある「**IN GOD WE TRUST**」というもう一つのモットー。
- 大統領就任式
 - 聖職者(牧師、神父、ラビ)の祈祷
 - 宣誓(締めくり)
⇒聖書に手を置き、「**神よ、私をお助けください**」

85

IV. 虹橋の未来へ

86

内村鑑三『デンマルク国の話』より **戦後の小学校国語教科書**

【あらすじ】1864年のプロシア・オーストリアとの戦いに敗れ、肥沃な南部2州を奪われたデンマークが、工兵士官ダルガス父子の努力によって国土の過半を占める不毛の荒野「ユトランド」への植林に成功し、小国ながらも豊かで平和的な国家として再建した話

今、ここにお話しいたしましたデンマルクの話は、私どもに何を教えますか。

第一に戦敗かならずしも不幸にあらざること教えます。(中略) 国の興亡は戦争の勝敗によりません、その民の平素の修養によります。善き宗教、善き道徳、善き精神ありて国は戦争に負けても衰えません。(中略)

第二は天然の無限の生産力を示します。富は大陸にもあります、島嶼にもあります。沃野にもあります、沙漠にもあります。大陸の主かならずしも富者ではありません。小島の所有者かならずしも貧者ではありません。善くこれを開発すれば小島も能く大陸に勝るの産を産するのであります。(中略)

第三に信仰の実力を示します。(以下略)

出典：内村鑑三 昭和51年1月『後世への遺書』内村鑑三『デンマルク国の話』岩波書店 87

現在も変わることのない命題(東日本大震災を経験して)

- 国土への働きかけと国土からの恵み、
- 脆弱な国土と厳しい自然環境、
- 苦難を克服してきた先人たちの歴史、
- 将来世代への豊かな国土の継承、
- こうしたことに素直に気づき、学び、そして行動することのできる芯(信)のある日本人を育てていくこと

88

日本橋梁建設協会さま資料より

橋建協の対応

3月11日：東北地方太平洋沖地震が発生

「地震対策本部」を設置

※緊急点検対応

※緊急復旧対応

3月12日：緊急点検開始

4月7日：最大余震が発生

4月8日：再調査開始



89

日本橋梁建設協会さま資料より

調査点検概要

範囲：東北6県、関東1都6県

新潟県 長野県

期間：3月12日～5月31日(2.5ヶ月)

調査橋数：のべ **3,507橋** (再調査を含む)

調査要員：のべ **2,310名**

(のべ958パーティー)

「災害時支援体制ガイドライン(橋建協)」

に基づき点検を実施

・管理者からの要請による点検(1,086橋)

・**会員各社による自主点検(2,421橋)**



90

「虹橋」(こうきょう)

虹(こう)は鋼(こう)に通じ
前途に7色の夢と希望を
抱かせる

—協会会報第5号(昭和46年7月)—

更に、
鋼橋(こうきょう)
虹橋(こうきょう)
公共(こうきょう)



91

未来へ「虹橋」を架ける
「鋼橋」「公共」に携わる方々は、

一日は貴い一生である。
これを空費してはならない。
(内村鑑三)

+

自己に頼るべし、
他人に頼るべからず。
(内村鑑三)

↓

誠実に由りて得たる信用は、
最大の財産なり。
(内村鑑三)

92

未来へ「虹橋」を架ける
「鋼橋」「公共」に携わる方々に

上位目標の再認識：
「将来世代により良い
インフラを残していく」

→ 国土に働きかける。
そのための教育をする。

93

未来へ「虹橋」を架ける
「鋼橋」「公共」に携わる方々に

われわれが五十年の生命を托したこの美しい地球、この美しい国、このわれわれを育ててくれた山や河、われわれはこれに何も遺さずに死んでしまいたくない、何かこの世に記念物を遺して逝きたい、それならばわれわれは何をこの世に遺して逝こうか、金か、事業か、思想か、これいずれも遺すに価値あるものである、しかしこれは何人にも遺すことのできるものではない、またこれは本当の最大の遺物ではない、それならば何人にも遺すことのできる本当の最大遺物は何であるか、それは勇ましい高尚なる生涯である。

内村鑑三著「後世への最大遺物」より

94

搾取でなく、交換でもない。贈与の時代に。
「鋼橋」「公共」に携わる方々に

自利利他

「自利とは利他をいふ」
(最澄伝教大師)

利他の実践がそのまま
自分の幸せなのだ

「参画社会」
「多様さを受け入れる寛容な社会」

95

FIN

96